



令和6年6月の三宅町議会の報告

【個人的に発信している活動報告です】

「ホンマか!?!」というのがあれば、できれば森内まで「またイランことを書いたんか?!」「書いたかもわかりません」m(_ _)m というやり取りが恒例...


1. 第2回一般会計補正予算が反対の賛成?!



委員会で否決された議案が、本会議で可決されました。ただし付帯決議も同時に可決されるということが起こりました。

→町長側の「これにオワネを使いたい」という計画が、最初は議員たちに「ダメ」とボツにされました。しかし、その後「やっぱりOK。でも、これだけは守つてね」という注意書をつけてOKされました。

では、何が問題になったのでしょうか? 2点あります。「地域おこし協力隊をあらたに2名追加するという事業」と、「ローカルスタートアップ事業」です。

 みいもオープン当初、受付をしてくれていた女性が、地域おこし協力隊でした。住民さんとの交流もあり頼りになる人でしたが、町は1年で契約解除したという実績があります

現在、三宅町には「地域おこし協力隊」という制度を利用して、町外から来た職員さんが5名います。彼らのことが、広報みやけ7月号で特集されています。👉👉👉👉👉

今の5人の加えて、さらに2名を追加する予算が、議会(正式には委員会)で問題になりました。我々・議員は、「今の5人」どういう活動をしていて、どれだけ町に貢献しているのか分からない状況で、さらに2人追加するのはどうか?と疑問をいただきます。また、この制度には任期が限られているため、大事な仕事をしてても**継続されるのか?**と不安です。

よく「よそ者」「〇〇者」「わか者」が地域や組織に新しい風を吹き込み、変革を促進すると言われます。地域おこし協力隊の皆さんにも、そうした活躍を期待をしています。



ローカル・スタートアップ事業についても、起業を支援する事業ですが、**昨年度の成果が見えにくく、三宅町にどんなメリットがあったのか不明**です。今年もこの事業を続けるのであれば、昨年度の振り返りから得られた教訓などを伝えるべきという点が問題視され、補正予算は委員会(正式には総務建設常任委員会)で否決されました。

この委員会のあと、本会議で正式に採決されます。否決される場合は、その部分をのぞいた予算が必要となります。可決された場合でも、「問題となった点に注意して予算を使って下さい」という付帯決議をつけることが、議員同士で合意されました。結果は、付帯決議が賛成多数で可決されました。

委員会では**反対**の、本会議では**賛成**(付帯決議つき)という「**反対の賛成なのだ!**」



※付帯決議(ふたいけつぎ):対象の案件について議会が執行上の意見や要望を表明するもの

森内哲也 活動報告

第28号

2024年7月

8



もりうちてつや
森内哲也
三宅町議会議員
三宅町伴堂137-9
メール: miyake@best-for-u.com
サイト: <http://mt.best-for-u.com>



詳しくはwebで!



7月に町長選挙がありました

投票率は52.93%でした。つまり、有権者の約半数が投票に参加されました(半分の方は選挙に参加しなかった)ということです。ちなみに同日に行われた川上村の村長選挙の投票率は88.15%、東京都知事選挙では60.62%でした。



この記事の画像提供はすべて:AI生成

三宅町の町長選挙でも、よく言われる「現職が強い」という言葉どおり、現職の森田浩司町長が再選されました。これからの4年間も務めることとなります。今回で3期目となります。これまでの2期の間、三宅町は過疎地域に指定され、消滅可能性自治体にも選ばれてしまいました。私の議員としての任期もこの期間と重なっています。このことは、これまでのやり方を継続するだけでは、問題が解決しない可能性があることを示しています。私は、自らの議員活動に対して、改善が必要だと感じています。

さて、今回の町長選にチャレンジされていた方が言及されていた内容を考えてみます。



「**町内交通の充実**」を掲げておられ、町内巡回バスを走らせるというアイデアを提案されていました。災害時には避難バスとしても利用する計画です。皆さんは、どう考えますか？

地域交通の問題は、まさに町内における大事な課題の一つです。森内も時々、活動報告でふれている移動手段の問題です。

コミュニティバスは、利用者がほとんどいないため、無駄な経費がかかると反対が必ず出ます。しかし、住民にとって必要であれば、行政はそのコストを払うべきだと、私は考えます。(困っているからこそ、みんなの税金で支え合う)。もし儲かるなら民間企業がやるはず。儲からないからこそ行政の役割があります。ただし、コミュニティバスを支えるためには、多くの住民の協力が必要です。つまり、コミュニティバスが出来たら利用することが大切です。

例えば、今、あるバスを全部一緒にしてみるのはどうでしょうか？

幼稚園の送迎バス、自治会とあざさ苑の風呂をつなぐバス、ボランティア活動への送迎バス、(社会福祉協議会からの依頼の運転ボランティア・バス)。あと、デイサービスの送迎バスなども走っています。これらのバスの相乗りを考えてみる価値はありませんか？

また、「乗って楽しい」となる工夫も必要です。以下のようなアイデアはどうでしょう？

時間や曜日を決めてカラオケ・バス。一緒に映画を鑑賞シアターバス。夕方の割引時間に合わせた買い物ツアーバス。町内のお食事処へランチバス(お店と交渉して一品オマケあり等)。町内の飲み会へはみんなまとめて宴会バスなどなど。

乗りたくなる工夫もしては、どうでしょう。

三宅町に**コミュニティバスが必要ですか？**

わたしも含め決定に関わる人々の中には、**車がない不便さを実感している者が今はいません**。声をあげてもらわないとなかなか実現しないと感じます。誰かがやってくれるのを待つ？

あなたの意見が明日の幸せにつながるかもしれません。

ご意見をお待ちしています。



「買い物をする場所もない」ところに、学生が来るのか？

買い物に行けなくて困っている人には、「とくしまる」という「移動スーパー」が定期的に三宅町に来てくれています。

(土曜日に町内をまわっているはず)

利用されている人もいます。

許可を得て写真を撮らせてもらいました。名刺をもらい「あっちこっちに言いくってもいいですか？」とたずね、許可をえています。しかし、個人情報かもしれないと、「政治家らしく(苦笑)」、忖度(そんたく)させていただきました。

声をかけたのは荒木さんという店長さんです。

誰でも利用可能。家の前までも来てくれると聞いています。詳しくは連絡下さい。

(森内:090-4292-0129 moriuchi@best-for-u.com) とくしまる⇒<https://tokushimaru.jp/>



話はコロッと変わって、6/26の奈良県議会で井岡議員が「三宅町に出来るヤング・イノベーション・レジデンス(学生寮)について」質問されました。これに対して、山下奈良県知事は、「(石見駅周辺には何も無いが)一定の人々が住むことになるので、今後、コンビニの誘致等も考えてゆく」と回答されています。(100人いるので、コンビニ経営するのかな?)



三宅町石見に誘致を県が考えているヤング・イノベーション・レジデンス(以降YIR)。このYIRのモデルになっているという「下北カレッジ」に、三宅町議員の有志で視察に行ってきました。私の感想は、「私がこれまで経験した学びの場とは違う発想の学びの場だ」というものです。

ですので、聞く話の内容すべてが、「へーそんなふうに考えてるんだ。だからこういう仕組みなんだ」と好奇心をかき立てられるものでした。いたるところに交流のための仕掛けがありました。

下北カレッジは、寮(レジデンス)でもあります。一方、YIRですが、「山間部の高校生の寮を三宅町・石見に移転する」という発想から来ているので、あくまで「寮(レジデンス)」という考え方が基本にあり、そこにどうやって「教育の場」という発想を加えてゆくのだろうと感じました。

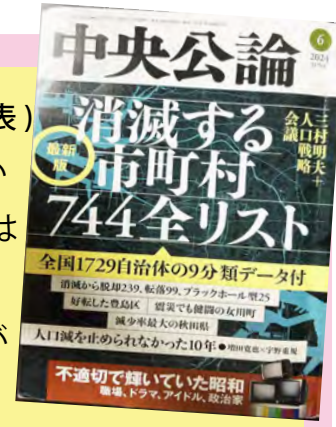
下北カレッジを利用しているのは大学生がメインで、運営は自発性・自律性を尊重していました。「これをして下さい」とは言わないというスタンスです。

しかし、YIRは「山間部の高校生の寮」が根底にあるので、高校生がメインの利用者だと考えると、自発性・自律性をどこまで求めるのかということも考えざるえないと思います。

(私の高校生時代は、なんも考えていませんでした。今も?)

今後の動向を見守っていきたいと思います。

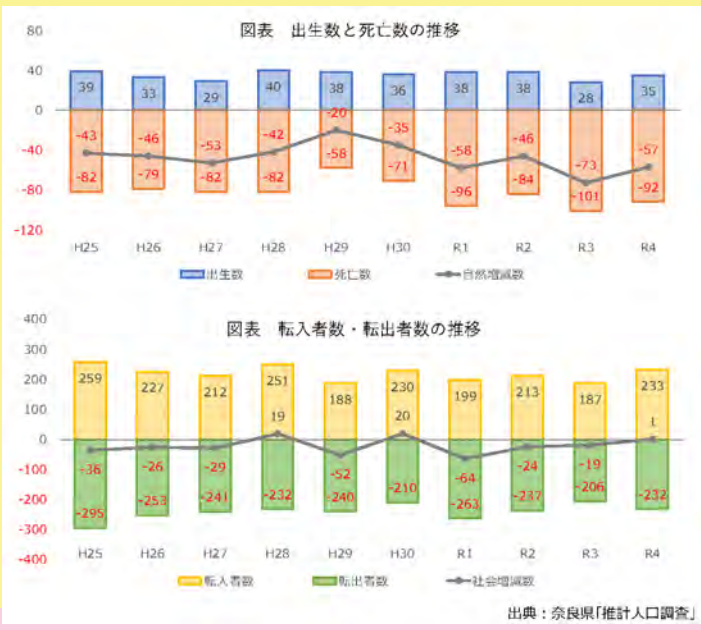




三宅町が**消滅可能性自治体**に選ばれました(人口戦略会議が発表)とても心配です。2014年の同じ調査では隣の川西町が消滅可能性都市に選ばれていましたが、2024年の調査では、奈良県で新たに選ばれたのは三宅町だけで、川西町は消滅可能性都市からはずれました。

この調査では、過去10年の人口変動をもとに、2050年に20~39歳の女性の人口が50%以上減ると予測される自治体を選びます。このままでは子どもが生まれず、その自治体が消滅する可能性が高いとされています。

この調査では、財政状況は考慮されずに、20~39歳の女性の人口変化のみに焦点が当てられています。おカネがなくなり自治体が運営できなくなるわけではなく、人口減少によって三宅町自体がなくなる可能性が示されています。 前回調査2014~2024年までの10年間は、私の議員任期と重なっており、支持してきた施策が、人口減少を抑制できなかったことが、エビデンス(証拠)として突き付けられました。



「最近のデータは悪くないですよ」とも、耳にしますが、10年間の傾向をふまえて判断する必要があります。この数カ月の動向だけで判断することはできません。



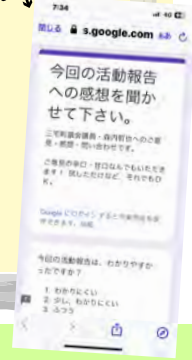
最後に木下齊さん※の言葉を引用しておきます。「**そこに生まれ、そこに育ち、そこで生計をたてられるようにする人を1人でも多くすること。**人口がたとえ減ったとしても、苦しくとも破綻しない行政サービスを実現するために、様々な工夫をするべきだと思います。」

※木下齊(きのした ひとし)：まちづくりのエキスパートです。地域活性化のリーダーとして全国で活動しています。

情報や意見を教えて下さい!

わからんという時はスマホ教室があったはず。他人に聞くのも生きるすべ

この欄のQRコードをスマホのカメラで読み取ってくださいますと、無料の「グーグルフォーム」にアクセスできます → そこにスマホで書き込むと、森内に届きます。 → → → → 「なんだろう?」という好奇心で試してみてもいいですよ → →



「9月議会が間もなく始まるという時期に6月議会の報告となり、遅れて申し訳ありません。一年に4回すなわち3か月一回、定例会議(本会議とか議会と言ってます)が開催されます。このペーすの中で、定例会議と定例会議の間には、議員研修がたくさん開催されます。今回は、7月に町長選挙もありましたが、定例会議の合間に、欲張って、議員研修にたくさん行きました。この活動報告にも一部掲載しています(下北レヅジ)。他に、まちづくり会社を立ち上げて大成功している茨城県境町という所にも視察に行きました。三宅町のみにも足りないのは、本気で儲けるといふ姿勢だなと痛感しました。みいも食堂でチャレンジした後に、開業して町内で儲けてもらう仕組みを用意できない以上、みいも食堂自身を稼ぎ頭にしないと...あと能登半島地震の被害にあった複数の自治体の議員さんの話も研修で聞きました。何より備えです。どの自治体も防災計画の想定避難者を大幅に超えた避難者でした。その自治体の備蓄は、すぐになくなるということです。

編集後記

いろいろなご意見をいただいています。メールでも連絡も可能です。家の前には専用ポストもあります。

miyake@best-for-u.com
<http://mt.best-for-u.com/>